



Don Quijote, Vol.47 montado en un avión

スペイン各地でのエピソード10

コスタ・デル・ソル

“太陽の海岸”＝年間300日が晴天

清水武 Takeshi Shimizu 旅行作家。
世界文学紀行を定年後のライフワークに作品の舞台を訪ねている。
東京都 昭島市在住
<http://homepage2.nifty.com/donky/>

texto : Takeshi Shimizu
fotos : Academia Vega

ここで私が留学し住んでいたコスタ・デル・ソルについて紹介しておきましょう。Costa del Sol「太陽の海岸」です。スペイン南部アンダルシア州の地中海に面した美しい海岸一帯。温暖な気候のため、ヨーロッパ有数のリゾート地となっています。果てなく続くオリブとひまわりの畑。明るい太陽の下に白い村が点在。フラメンコ、闘牛の本場です。「年間300日が晴天」といった案内書もありますが、その通り、毎日抜けるような青空と、まぶしすぎるくらい太陽が注いでいます。

大学のあるマラガ市は、このアンダルシア州にある8県うちのマラガ県の首都。人口約60万でピカソが生まれた町としても有名です。コスタ・デル・ソルの玄関口でヨーロッパ各地からの直行便もあります。私も日本との往復はいつも成田—ロンドン—マラガの経路にしています。

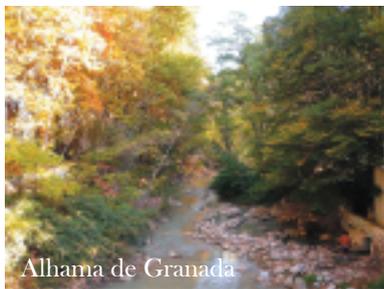
住んでいたトレモリーノスはマラガ市のやや西にあり、治安もよく落ち着いていて、イギリスやドイツ、北欧からの観光客、長期滞在者が多いです。さらに西のマルベージャが、世界の富豪たちが集まる高級リゾート地なのに対して、ここは庶民的な町としてスペイン人にも人気がありました。

あるとき、自宅からそれほど遠くないところに温泉があると聞きました。スペインに温泉!? 温泉大好き人間にとっては聞き捨てになりません。いつかその真偽を確かめ入浴してみたいと思っていたところに機会が訪れました。マラガ市から北西に約80キロのアラマ・デ・グラナダ。標高800mの小村です。村から少し離れた川のほとりに湯治客用の小さなホテルが立っていました。自分たちの目指すは川のほとりにある無料の露天風呂。ホテルの湯と同じ湯元から湯を引いて、三つの浴槽に似た水槽につなげられています。“浴槽”は岩と石でせき止められ、底は砂利と砂です。一つに10人ほどが入れます。鉱泉で摂氏40度前後と少々低いですが、長時間浸かっているのにはちよ

うどよい温度です。先客にはスペインの地方からの若者たちが6人、子連れ2家族、一組の若いカップル、そこへ幼児を連れてドイツ人夫婦が入ってきました。川の50mほど上流には橋があり、通行の観光客が珍しそうに眺めていきます。中にはカメラを向ける人もいます。男女混浴です。

「エッ、スペインってそんなに開けているの?」なんて一瞬疑い、すぐに「ナアーンダ」と残念に思う御仁もいるかもしれません。そう、水着での入浴なんです。それでも湯に浸かりながら足を思い切り伸ばし、遠方に目をやると、川のほとりの木々は新緑に萌えています。真っ青な空とさんさんとふりそそぐ太陽。実に健康的です。肌もすべすべになり、身体もすっきりほぐれたようでした。案内書によれば、すでにローマ時代から湯治として用いられていたといえます。

帰途の車窓からは、オリブ畑と新緑の草原のはるか向こうに、雪をかぶった真っ白なシエラネバダ山脈が横たわって輝いて見えました。なんとものどかな日本の晩春から初夏の風情。足(車)がないと少し遠くて大変ですが、スペインにもこんな穴場があることもご報告しておきます。



Alhama de Granada



Malaga

